

「永山まちづくり推進協議会」会議録 （令和7年度第1回）

○日 時 令和7年5月28日（水） 午後6時30分～午後7時35分

○場 所 永山公民館 2階 講堂

○出席者 ・ 委員9名（50音順） （欠席者8名）

入谷委員、葛西委員、紙谷委員、工藤委員、島田委員、高橋委員、
豊島委員、幅崎委員、村井委員

・ アドバイザー4名

旭川市教育委員会3名

社会福祉法人旭川市社会福祉協議会1名

・ 事務局職員4名

永山支所長、同副支所長、同市民係員、永山公民館長

○会議の公開・非公開 公開

傍聴者0名

○会議資料

- ・ 会議次第
- ・ 永山まちづくり推進協議会委員名簿
- ・ アドバイザー名簿
- ・ 永山まちづくり推進プログラム
- ・ 令和7年度地域活動計画
- ・ 令和7年度会議スケジュール
- ・ 永山まちづくり推進協議会 NEWS
- ・ あさひかわ地域のチカラ
- ・ 令和7年度 永山西小学校クラブ活動「永山クラブ（案）」

※当会議録中では、次のとおり表記する。

- ・ 永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開会

2 会長挨拶

会長が不在のため、副会長から第1回協議会開催の挨拶を行った。

3 委員、アドバイザー、事務局の紹介

委員などに異動があったことから、それぞれ紹介を行った。

4 議事

会長に代わり副会長が議事進行を行った。委員や事務局の主な発言は次のとおり。

(1) 永山まちづくり推進プログラムについて

事務局から概要を説明。説明に対し、委員からの意見・質問はなかった。

(2) 令和7年度 地域活動計画及び(3) 令和7年度スケジュールについて

事務局から、3月に開催した令和6年度第3回会議で提案した計画案に「中学生と高齢者の合同演奏会事業」を追加したことを中心に説明。続けて令和7年度の会議実施予定について、説明した。

ここまで各委員から質問、意見がなかったため、副会長が委員、事務局を指名し、各実行委員会での今年度の取組について説明を求めた。

(委員)

地域のオタスケマンはもう12年くらいやっております。永山西小学校の3年生に対し、私と、交通部長、防犯部長の3人で地域のボランティアとは何か、交通ルールについての話ですとか、朝の見守り事業について、それから町内会の活動についてお話をしております。

なぜこの事業が始まったかという、小学生・中学生が地域のボランティアについてなかなか知る機会がないということで、「彼らが大人になって別の地域に行ったときにも地域のボランティアに参加してほしい」という思いを込めて、毎年事業を行っているわけでございます。

この事業を永山全域に広げようと、今一生懸命やっているんですけど、なかなか一小学校から広がらず、困っているところです。

いつも6月にやっているんですが、今年は6月に西小学校が新校舎に移るものですから、秋に実施したいという連絡がありまして、9月か10月に開催する予定でございます。

おとしはこの事業の後、子ども達が「私たちも何かできないか」ということで、3年生全員と町内会、市民委員会の方と1時間ほど学校の周りのごみ拾いを実施しました。子ども達にボランティア活動が根付いたのかなと思っております。

(委員)

旭川市立大学の屯田まつり支援事業実行委員会のこれまでの経緯と、今年度の取組について説明させていただきます。令和5年度、6年度と取り組んできたことは、事前学修と舞踊パレードへの参加となります。令和6年度の事前学修では、屯田まつりの歴史や経過などについて屯田まつり実行委員長から御講話いただきまして、続いて屯田音頭を南西地区市民委員会の女性部長から御指導いただきました。その後4つのグループに分かれて「永山に暮らして」「屯田音頭の魅力とは」「これからの永山について」などをテーマにグループ交流を行いました。このような取り組みで、旭川市立大学の学生は、永山地域の歴史を学び、永山第二地区市民委員会は屯田まつり舞踊パレードの担い手

不足や、SNS 等での情報発信不足を補ってもらうことで、お互いに有益な連携を図ることができたと感じています。

しかし、これまで中心となっていた教授が退官され、令和7年度の新たなシラバス、大学の学習計画には屯田まつりへの連携が組まれていないということが分かりました。高齢化や担い手不足などの課題を抱える市民委員会では、学生の皆さんが授業に参加していただくことで活力と元気をいただいていたので、なんとか学生の皆さんに参加していただきたいと思い、大学側と協議を進めてきました。その結果、資料3にありますとおり「旭川市立大学の屯田まつり支援」の名称を「令和7年度第39回永山屯田まつり舞踊パレード交流活動」に改称し、永山屯田まつりの舞踊パレードに、学生と教職員の有志が参加することを通じ、市民委員会・屯田まつり実行委員の皆さんと、大学学生、教職員とのつながりを作ることとしました。この取り組みにより、永山屯田まつりを盛り上げることができるよう努めてまいります。

最後に大学と市民委員会の連携をさらに深めたいという思いがありまして、学生に対して市民委員会をよりアピールできるような取り組みを探っているところです。一例として6月の中旬に旭辰祭（大学祭）があると聞いていますので、学生の皆さんを応援できることはないか、大学に打診しているところです。

（委員）

今のお話からすると、今年は踊りに参加する学生さんが少なくなるかもしれないということでしょうか。

（委員）

そうですね、2年前は学生30名ぐらい、昨年度は人数がすごく増えて53名、今回は全学生に募集をかけるのですが、有志ということですので50人までは手が届かないのではないかと予想しております。10人でも20人でも参加していただけることが何よりだと。若い力を、パワーをいただきたいなと思っています。

（委員）

屯田まつりについては、私の方からも、これから大学の窓口となる先生へお願いしながら活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

（事務局）

まちづくりニュース作成事業は、その年の各実行委員会での取組をまとめたものをニュースとして作成し、全まち協をPRするパネル展や公共施設に配

置して、永山まち協のPRを図るものでございます。年度末に2,000部を発行し、翌年度の4月～5月に皆さんにお配りしたいと考えております。

(事務局)

永山地区子どもの学習支援事業は、永山公民館の貸室を学習室として、児童や生徒たちに開放しています。旭川市立大学の学生ボランティアが見守りを行って、予習・復習、宿題等の学習支援を行っており、去年は42回行いまして参加した子どもの人数は95人となっています。今年度についても同じ回数を予定しています。

(委員)

スープの冷めない“きずな”づくり事業は旭川市立大学短期大学部教授と相談しながら行っています。事業の目的は、65歳以上の高齢者世帯がとて増えていて、家に閉じこもりがちになっている方が多く、コロナの影響もあって人との関係性が希薄になりつつあります。アンケートの結果から、低栄養のリスクがある方が多いことも分かりました。そこで、「食」を中心とし、「スープ」をキーワードとして永山の農業関係者や地域の方、また、旭川市立短期大学部の方々と協力して、高齢者を対象にスープの宅配をしています。

学生が高齢者宅を訪問し、交流を深めていくという内容になっています。

今年も3地区での実施を検討しております。今年度も住民の方と学生、包括支援センターとが共同で行っていきたいと考えているところです。

学生がお宅に届けることで、専門職としての学びを深めていくことも目的と思っております。

(委員)

永山健康マイレージ事業について、栄養調査において低栄養リスクのある方が2割から4割いることと、オーラルフレイルが5割ということで、住民の中にはこれらが原因で体調を崩したり、活動量が低下している方が多くおられました。多くの高齢者が運動はするけれど、自身の低栄養やオーラルフレイルに気づかず、これらが進行していくことに問題意識を持っていないことが大きな課題であると把握しています。昨年もこの事業により、食事や口腔状態の改善がみられており、事業の継続が住民への周知につながっていると考えています。今年度も住民の方、大学、包括支援センターで取り組むことで、地域全体が栄養や、口腔における意識を高めることを目的にしています。

御自宅でも介護予防に取り組んでいただこうということで、栄養のチェックや口腔のチェックを記録し、応募してもらいます。応募された方にはあさひかわ商工会の協力も得て、協賛企業からの商品を配布し、取組の評価を見ていく事業でございます。

昨年行ったクッキング教室や口腔の取組について、今後実行委員会で検討しながら進めていく予定となっています。

(委員)

永山南きづな・ほのぼのバザー事業は、障害事業者が作成したパンや、協賛企業の商品を認知症当事者や障がい者が役割を担いながら販売するバザーを開催しております。実は、「永山南きづな」という名前、あちこちで使われております。私、永山南地区きづな協議会創設時のメンバーで、“絆”という題字を頼まれたとき、“きづな”というより“き綱”だねということで、「永山南きづな」としました。

(事務局)

永山魅力発見隊事業について、今年度、永山は家具作りが盛んということで、森林の保全や木工工作をテーマとした施設見学や製作体験を実施できたらと考えています。木工と言えば旭川農業高校には森林科学科があり、色々と相談にのっていただきながら今年度の事業を実施していきたいと思っています。

(事務局)

中学生と高齢者の合同演奏会事業ですが、今年の10月5日にデイサービス生きる音の高齢者と、永山中学校吹奏楽部の合同演奏会を開催するというものでございます。永山中吹奏楽部といえ、永山南中吹奏楽部とともに4月にテレビで紹介され、全日本吹奏楽コンクール中学生の部で両校とも金賞を受賞し、音楽が注目されているということで、合同で演奏会を実施することとなりました。

(副会長)

今年度の取組予定をお話しいただきましたが、皆さんから補足したいことなどありましたらお願いします。

(事務局)

令和7年度の予算額は384千円であるが、余裕が生じれば新規事業を実施することも可能であるため、それぞれの実行委員会で事業が終了したら、速やかに事務局へ連絡をお願いします。

(委員)

SOS ネットワークの取組みについて、昨年の4月に永山まちづくり推進協議会を卒業してから1年たちました。昨年度は、行方不明となってボランティアの方に探してもらった件数が2件、そのほかに模擬訓練などやりました。一番ネックになるのは予算面でして、実行委員会で企業や施設の方に協力金をお願いして、24社から7万4千円ほど集まりました。それを元にパンフレットを作成し、町内会・市民委員会へ配布しました。家からいなくなってしまうときに探してほしい方が、現在6名登録しております。

これからも登録者を増やしていこうと思っております。

(副会長)

今年度は9事業でスタートしますが、こんなことが地域で課題となっているので取組が必要ではないかとか、こういったことがあれば永山が活性化するとか、新たな事業の可能性など、皆さんからアイデアがあれば御発言をお願いします。

ほか、近況報告やお知らせ、又は協力の依頼などでも構いません。

(委員)

今現在、屯田まつりの開催に向け、全町内会にお願いして、協力いただく準備に入っています。町内会としても、会員の増強が問題であるのと、役員の担い手が不足している、以前から同じような課題を抱えている状況でございます。

(委員)

永山は3つの組織でボランティア活動を行っています。それぞれのエリアに分かれ、昨年度も地域に根差した活動を行ってきました。今年度は、各町内会にある公園や会館を使いながら、モルックで高齢者や子ども達の交流を図っていきたいと考えて事業を進めていく予定です。

(委員)

あさひかわ商工会は小規模な会員事業所が非常に多くて、その中で永山地区はエリアが広く、人口も多いので会員さんが多いという状況です。地域の振興、地域の賑わいを作るということも商工会の考えるところですけど、永山の市民委員会が開催している屯田まつり、協賛金の集め方まで実行委員長が中心となって行っているのを見ると、頭が下がる思いです。

明るい話題としてインバウンドの方がだいぶ旭川に戻ってきたということで、飲食店を中心に比較的良くなってきたり、あるいは、近くの民泊も外国人が1泊20万円で泊まっていたりということもあります。一番の課題は人出不足でございまして、機械化やロボットも使いながらやっていかなければというところです。

(委員)

永山消防団の現況ですが、現在団員数が昨年より2名減りまして、63名が消防本部の御指導、支援をいただきながら活動を行っております。今年の1月から5月までの建物火災は0件で、昨年は3件ありましたので、幸いだなと思っております。現状、全市共通しております団員の不足ですが、永山はなんとか確保できておりますので、引き続き地域防災の中核として活動してまいりたいと思っております。

団員は募集しておりますので、何か情報があれば教えていただきたいと思います。

昨年、消防の技術を競う大会で28分団が旭川市代表として全道優勝を果たすことができました。昨年10月に宮城県で開催された全国消防操法大会に参加しております。結果はまいちでしたが、旭川代表としてがんばってまいりました。

(アドバイザー)

令和7年度永山西小学校クラブ活動についてです。授業の一環でクラブ活動を行っているのですが、地域に根差した活動という形で企画させていただいています。地域の方を講師として迎え、一緒に活動することで地域を好きになるきっかけづくりを行っています。対象の児童は小学校4年生～6年生の9名となっています。今年の活動は6月20日から9月5日まで6講義です。

永山屯田まつり実行委員会のお力をお借りして屯田太鼓の実演や、永山地域包括支援センターの方から認知症についての講義があります。7月22日には、次の週の屯田まつりにむけて、実際のアンドン作り、制作過程を学びます。8月29日は永山屯田太鼓さんの太鼓演舞や実際に叩いてみることになっています。

この活動は単年度で終わりではなく、続いていきますので、来年度も皆様にお声がけするかもしれません。御協力よろしくお願いします。

(委員)

永山屯田まつりで3回も関わりますので、子ども達には実際に太鼓を叩いたり、アンドンの色付けをしながら学習していただけたらと思います。

(委員)

地域の大学として、特に看護師、介護士、社会福祉士、栄養士、保育士と、いわゆるソーシャルワーカーとして地域に非常に重要である資格者を輩出していますので、地域の抱える課題についての学びを深めて送り出したいと思っています。まち協としてだけではなく、大学の役割をしっかりと考えながら、関わっていきたいと思っています。関わっている活動を通して、学生が感じるものがあるといいなと思っています。

5 閉会

副会長に代わり、会計から閉会の挨拶があった。